

随 想

アルゼンチン人のわたしのいけん

ビルヒニア

Virginia Susana Gonzalez de Baldelli

せんじつ、わたしのせんせいは、にほんのびょういんのせいどについて、わたしのいけんをかくようにいいました。

じつのところわたしには、かなりむずかしいのです。というのはまさに、ちきゅうのはんたいがわのくにからきたからです。そして、にほんとアルゼンチンではいくつかのちがいがあるからです。

おなじようにかんがえかた、いきかた、そしてこうどうのしかたも、またともちがうからです。おそらく、これをよんだひとはおもしろいとおもうかもしれないし、ぎゃくにつまらないとおもうかもしれないでしょう。

にほんのびょういんは、にほんのしゃかいとおなじように、とてもよくそしきかされていて、いしゃからかんじゃまで、びょういんにいるすべてのひとは、じぶんのやくわりをよくしっています。

ここまではわたしたちにも、りかひできよいことだとおもいます。しかし、わたしはたいへんおどろいたことがあります。それはびょういんのなかでのにんげんかんけいです。

ことわっておきたいのですが、わたしのけいけんは、ひとつのびょういんのことだけです。そのびょういんはとてもおおきいので、だからいしゃとかんじゃのかんけいはほよりむずかしいとおもいます。

わるくいうつもりはないのですが、わたしのかんじたところでは、ひとびとのけんこうにこうけんするはずびょういんのなかで、だいじなひとはかんじゃではなく、いしゃなのです。いしゃが、かんじゃをわるくあつかうというのではありません。かんじゃのほうが、いしゃをまるでかみさまのようにあつかいます。じっさいかんじゃは、もんくもいわずにいしゃがそのかみのようになちからでかんじゃをちりょうしてくれるように、いのちをあずけるのです。

さいしょのうち、じゅんかいしんさつでアルゼンチンではみられないばめんをみました。ふちのやまいのおばあさんが“よろしくおねがいます”といいながら、ゆかまであたまをさげました。わたしのくにではかんじゃはそのよう

なことはしません。なぜならむこうではかんじゃをなおすことがいしゃのぎむで、かんじゃはおねがいすることはないとかんがえます。

ほかにきがつきましたことでもうひとつ、なごやのうだるようなあつさのなか、けんきゅうしつにはどうぜんクーラーがありますが、4にんのおおべあのびょうしつにクーラーがありません。このようなことは、このびょういんだけではなく、ほかのこくりつびょういんでもおなじだろうとおもいます。

にほんけいざいがきゅうげきにはってんしたように、このびょういんもきゅうげきにおおきくなり、こうがくのきかいをとりいれていますが、それとどうじにひつようとおもうのは、にゅういんかんじゃのかんきょうのことをもっとかんがえたほうがよいのではないのでしょうか……

なによりも、かんじゃのこころとからだのりょうほうのいたみやわらげるひつようがあるとおもいます。

(名古屋大学医学部大学院研究生)